

※本メルマガ「きたやま通信」の配信を個人で希望される方は、こちらの QR コード(もしくは URL) から、メールを受信できるアドレスの登録をお願いします。また、本メルマガを多くのお知り合いの方々にご紹介いただければ幸いです。



<https://forms.gle/UGNXEb9q5ysYwGBG8>

■1 研修室点描

◇1 新規採用予定者[特別支援学校教諭]採用前研修講座 第2日

◇2 新規採用教員[初任者]研修講座(小学校)第14日

■2 実践家の魅力に迫る! ~アクティブラーナーにインタビュー~

■3 センター事業のご案内

令和5年度研修履歴、令和6年度研修講座概要・申込みについて(企画管理課)

■4 参考資料等のご紹介

▼1 特別支援学級スタート応援ブック「学級経営編」第4版に更新!(特別支援教育課)

▼2 「新特Q&A」をR6版に更新!(特別支援教育課)

▼3 「不登校」児童生徒への支援の充実に向けて(教育相談課)

▼4 文化芸術教育の充実・改善に向けて(教科教育課)

■5 推挽録(編集に寄せて)

■1 研修室点描

◇1 新規採用予定者[特別支援学校教諭]採用前研修講座 第2日

【期日】令和6年2月27日(火)

【人数】105人

【内容】オンライン研修(センター職員)

〈講義・演習〉「児童生徒や保護者、地域の人々とのよりよい関係づくり」

〈実践発表・研究協議〉「チーム学校としての取組」

○協力者 鹿島特別支援学校 帖佐 怜奈 教諭

〈講義・演習〉「特別支援学校における学級経営の基本」

〈講義・演習〉「授業づくりで大切にしたいこと」

○協力者 勝田特別支援学校 齋藤 純樹 教諭

【参加者の声】

○4月から気持ちを新たに茨城県の特別支援学校で働く意欲が湧いた。特に、チームティーチングに向けて、教員間でのコミュニケーションは欠かさないようにし、生徒・保護者ともより良い関係づくりをしていきたいと感じた。そのために、自分自身学びをアップデートし続け、魅力的な人間であらうと思う。

○今までの学校勤務の経験を活かしつつ、初心にかえり、児童生徒の成長のために教育活動に取り組んでいきたい。また、自分の考えに固執せず、保護者の願いや要望に寄り添う姿勢を忘れずに、特別支援教育を学び続けたい。

○現職の先生方の実践発表はとても勉強になった。次年度の見通しが持てた。期待と不安はあるが、学び続けることを忘れず、自分の指導に批判的な目を持ち続け、こどものより良い可能性を引き出すことができる教師を目指していきたい。

【特別支援教育課より】

○共に特別支援学校に勤務される仲間と出会い、話し合えたことで、4月から教員として歩いていく自覚と心構えができたのではないかと思います。これからも様々なことを吸収し、こどもたちと共に成長されることを期待しています。

◇2 新規採用教員〔初任者〕研修講座(小学校)第14日

【期日】Ⅰ期:令和6年2月14日(水)、Ⅱ期:2月21日(水)

【人数】157人、146人

【内容】〈研究協議〉「1年間の研修の成果と次年度への課題」(センター職員)

○1年間の研修での学びを生かした教育実践について振り返りを実施。成果と課題について、個人ワークで30分間じっくりと自分と向き合い、持参した校内、校外の研修資料を読み返して、実践を省察しました。

○グループで経験を話したり自身の研修資料を提示したりして、よりよい解決策を協議。互いの成果を認め合う中で、自分のよさにも気づき、次年度への意欲を高めている姿が見られました。また、資料や協議を基に2年次以降について見通しを共有しました。

【参加者の声】

○4月の頃ははどうしていただろうと思いましたが、日々を過ごすことに必死で、当時の記憶をすぐに思い出せなかった。2月現在、あの頃の自分よりも余裕があり、成長を感じることができた。2年次に向けて準備をしていきたい。

○1年を振り返ると、失敗したこと、苦しかったこと、楽しかったこと、嬉しかったことなど、さまざまなことがあった。しかし、それらは全てこれからの私を作る貴重な材料であり、次年度以降も同様に経験を積んで、自分の理想に近づけるようにしたい。

【教職教育課より】

○1年間の実践と校内・校外研修をつなげて振り返ることで、新たな気づきや疑問が生まれている様子を頼もしく見ていました。それは、経験が伴うからであり、その気づき、疑問が新たな学びの一步となるでしょう。湧き上がる思いを対話し続けていた姿から、同期の仲間との学び合いは今後もつながっていくと確信しています。

■2 実践家の魅力に迫る! ~アクティブラーナーにインタビュー

◇1 結城市立結城西小学校 枝川 裕介 教諭 (R5 研修センター長期研修)

〈研究主題〉児童がウェルビーイングの実現に近づける理科学習指導の在り方

—小学校第4学年「ものの温度と体積」における児童がエージェンシーを発揮する学習活動の工夫を通して—

枝川先生は、研修センターでの長期研修で、理科の授業づくりについて研究しました。

○先行研究ではウェルビーイングに焦点を当てたものが少なく、この分野の研究は大きな可能性を秘めています。

○児童自らが考えた実験を計画・実施する場の設定と振り返りの視点の焦点化は、エージェンシーを発揮する学習活動につながり、児童がウェルビーイングの実現に近づくことができる理科学習となりました。

※枝川先生は、本研究において学術論文で認められているSCATを用いた半構造化インタビューの分析に挑戦しており、今後の研究発展の可能性も期待できます。児童がエージェンシーを発揮する学習活動の工夫を行うことにより、児童自ら目標を設定し、責任ある行動をとりながら、問題を解決する喜びを実感できるように変容している姿が見られましたので、是非ご覧ください。

※研究報告書は[こちら](#)

◇2 取手市立取手西小学校 江崎 知菜 教諭 (R5「未来を創るSTEAM教育研修講座」受講)

江崎先生は、講座受講を経て、次年度の学校教育計画にSTEAM教育を取り入れることを提案されました。取手西小学校では、ランドデザインにSTEAM教育のArtに着目した思考力・表現力の向上を設定することとなりました。次年度からは、継続的に「朝鑑賞」を実施したり、総合的な学習の時間に「探究的なアート活動」を組み込んだりしていくそうです。

○受講したことで、これまで考えていたよりもSTEAM教育の垣根が低くなり、挑戦したいと思うワクワク感が芽生えました。同時に校内の環境づくり、カリキュラム作り、課題設定の工夫が児童主体の授業に大切だと感じました。これまで以上に授業づくりに力を入れ、何より自分が楽しめるようにしていきたいと感じました。

○取手市のアートの町の特徴や環境を生かしたSTEAM教育を展開できるよう、試行錯誤しながらチャレンジしてみたいと考えています。

※取手市には、東京芸術大学取手キャンパスや取手アートプロジェクトなど、アートに親しむ環境がたくさんあります。地域を活用した学びによって、豊かな感性を育むSTEAM教育が展開されることを期待しております。

※取手アートプロジェクトHP [こちら](#)

◇3 つくばみらい市立富士見ヶ丘小学校 関 浩史 教諭 (R5 研修センター長期研修)

<研究主題>目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力を育てる国語科学習指導の在り方—小学校第6学年「町の未来をえがこう」における、総合的な学習の時間と関連付けた単元構成のもと、思考の可視化と振り返りに重点を置いた学習活動を通して—

関先生は、研修センターでの長期研修で、教科等横断的な視点を生かし、総合的な学習と関連させた国語科の授業づくりについて研究しました。

○児童が自分の考えを伝える相手や目的を明確にし、必要感をもって学ぶ姿につながりました。

○授業支援ソフトを活用し自分の考えを伝えるための材料を可視化しながら分類することにより、児童は材料同士のまとまりやつながりを意識しながら材料を精選することができました。

○プレゼンのモデルを比較することで、プレゼンを作成するための観点を明確にし、それらをもとに交流を繰り返すことで、児童は自分の考えが伝わるように表現を工夫することができました。

○本時の学びを振り返る視点を明確にして振り返りを継続することで、児童が自らの学びを自覚し、次の学習に生かそうとする姿につながりました。

※実際に参観した授業場面では、自分の考えを伝えるために、ICT 端末を効果的に活用しながら、学びを深めている児童の姿が見られました。実践に役立つ内容ですので、是非ご覧ください。研究報告書は[こちら](#)

◇4 水海道第二高等学校 中村 健人 教諭 (センター研究事業「教育の情報化に関する研究」協力員)

中村先生は、研究主題「児童生徒の協働的な学びの質を高めるICT活用の在り方」を追究すべく、多彩なアプリを活用した生徒の主体的活動機会の創出、異学年間協働活動の実施等様々なアイデアを構想し、実践されました。

○実践を繰り返すことにより生徒が主体的に活動する授業を実現できるようになりました。それに伴い、教師主導の授業では気づくことも対応することも難しかった生徒の躓きや、進度の早い生徒へのサポートが可能となり、協働的な学びに加えて個別最適な学びを実現できるようになりました。

○研究事業では、他校種の協力員の先生との交流から多角的な視点や多様な CT 活用の知見を得ることができたので、今後も教科指導×ICT 活用についての取り組みを充実・発展させたいと考えています。

※本研究の発表会を8月6日(火)にハイブリッド形式で実施します。是非ご参加ください。また、研究報告書は年度内にセンターホームページにて公開予定です。当該研究は今年度で終了しますが、こどもたち一人一人の資質能力向上のため、今後も教科指導と ICT のベストミックスを追究し続けていただくことを期待しています。

◇5 下妻第二高等学校 北條 奈緒美 教諭

(R5「未来を創る STEAM 教育研修講座」、R5「市民性を育む!シティズンシップ教育研修講座」受講)

北條先生は社会とつながる教科等横断型の探究授業を目指し、総合的な探究の時間において、下妻市議会や市役所と連携した課題解決型学習「しもつま未来ビジョン」に取り組み、まちづくりを通して高校生の社会参画意識を高める学習を展開されています。

○生徒と一緒に「楽しむ・学ぶ」のスタンスを大切にしていきたいと考えています。高校の教員にとっては小中学校の取り組みが非常に参考になり、各校種が一緒になって学ぶ研修はとても気付きが多い好機でした。STEAM 教育を系統立てながら組織的・継続的に行っていくにはカリキュラム・マネジメントが重要なため、教員の他者を「まきこむ」力が試されると感じます。さまざまな視点を得られる学びの機会となりました。

○下妻市議会傍聴や市長とのパネルディスカッションなどを経験したことで、生徒にとって課題が自分ごととなり、学ぶ意欲が向上しました。グループごとに街づくりの企画を考案する中で情報科や理科との横断を図り、実験や検査、仮説、検証などに実践的に取り組むことができました。

※下記により、「令和5年度県西地区3校合同探究発表会」が開催され、総合的な探究の時間のプロジェクトの成果が発表されます。高校や中学校等にも案内が通知されています。お時間の許す方をご参加をどうぞ。

・日時 令和6年3月 26 日(火) 14:00~16:00

・場所 下妻第二高等学校 会議室

・発表校 下妻第二高等学校、境高等学校、鬼怒商業高等学校

・申込等 ☎要項は[こちら](#)、チラシは[こちら](#)

■3 センター事業のご案内

日頃より本センターの事業推進にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。令和5年度事業も滞りなく実施することができました。間もなく令和6年度事業が開始となります。つきましては、企画管理課より各学校にお知らせした以下の3点について、学校内での周知をお願いいたします。（企画管理課）

▼1 令和5年度県教育研修センター「研修履歴一覧」を送付しました！

令和6年度研修講座の受講対象者を確認する際、及び受講を奨励する際の補助資料としてご活用願います。

☞令和6年2月29日付け研セ第843号

▼2 令和6年度県教育研修センター「事業概要」を公開しました！

令和6年度研修講座の受講に際しご活用願います。☞令和6年3月7日付け研セ第858号

茨城県教育研修センターWebページ → 研修講座資料室 → 令和6年度事業概要

アップデートした内容についても併せて掲載しています。☞詳しくは[こちら](#)

▼3 令和6年度県教育研修センター「研修講座の受講申込み」を4月1日から開始します！

学習観の転換、教師観の転換に伴う研修観の転換を期し、117の講座を準備しました。奮ってご参加ください。「研修講座資料室」から申込み可能です。☞令和6年3月8日付け研セ第861号

【基本研修・悉皆研修・推薦研修】

年度当初に各学校で受講対象者を決定できる講座は、管理職から一括で申込みいただけます。

- ・基本研修：法定研修や年次研修など
- ・悉皆研修：新任の職務に関する研修など
- ・推薦研修：校種、地区、学校などの割当てを指定した研修

【希望研修】

令和5年度から、「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」の実施に併せ、希望する本人による申込みを基本としています。自律的で探究的な「新たな教師の学びの姿」を実現するために、多くの先生方のチャレンジをお待ちしております。

■4 参考資料等のご紹介

▼1 特別支援学級スタート応援ブック「学級経営編」第4版に更新！（特別支援教育課）

はじめて特別支援教育に携わることになった先生方はもちろん、経験を積まれた先生方にとってもご活用いただけるよう、リニューアルをしました。ぜひ、お手元においてお役立ただけましたら幸いです。「授業づくり編」も近日中に更新し公開します。☞[こちら](#)

▼2 「新特 Q&A」を R6版に更新！（特別支援教育課）

はじめて特別支援学級・通級指導教室の担当になった方々からの質問への回答集を掲載しています。今回は、場面緘黙の児童生徒への対応や、異学年の授業づくり等、アンケートで質問があった内容も盛り込んでリニューアルしています。児童生徒の学習や行動における支援や指導のヒントとしてご活用ください。☞[こちら](#)

▼3 「不登校」児童生徒への支援の充実に向けて（教育相談課）

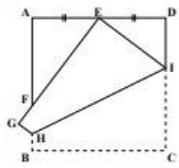
教職員支援機構の校内研修シリーズNo.141「不登校児童生徒の支援と教育相談」（☞[こちら](#)）が令和6年2月2日にアップされました。当事者である「不登校」児童生徒のリアルな気持ちや声がまとめられており、保護者への支援のポイントも具体的に述べられています。ぜひご視聴ください。

▼4 文化芸術教育の充実・改善に向けて（教科教育課）

文化庁では、学校教育における全てのこどもたちへの文化芸術教育の充実を図るため、今後の文化芸術教育の充実・改善に向けた施策の方向性等について検討を行う有識者会議を開催しています。

演劇教育を含め、「これからの社会でもとめられる文化芸術教育の在り方」「本物の文化芸術体験とICTの活用による効果的な学びの在り方」「教員の資質・能力向上と外部人材の活用」など、これまでの検討内容の中間整理となる資料をご紹介します。是非ご一読ください。

■5 推挽録（編集に寄せて）（教科教育課 主査 青木 光一）



▽先日の中堅講座のアンケートに「先生のお話がとてもわかりやすく、学び多い時間となりました」との記述があり、思わずうれしくなりました。算数数学教育に携わって43年。助言する立場ですが、毎回、講座に参加する若い先生方の実践から多くのことを学んでいます。

▽平成7年、私の授業がNHKテレビおはよう日本で放送されました。そのときの問題がこの図で、おりがみを1回折ったものです。これは筑波大学の公開講座で芳賀和夫先生（この定理の発見者）から教えて頂いた問題で、当時は教科書にも掲載されていない全く新しい問題でした（現在は掲載あり）。生徒たちは図形の性質を次々と発見して証明していきました。（詳細は「芳賀定理」「オリガミクス」で検索。）

▽遠いあの日、あの研修会に行かなかったら、この問題にも出会えず、楽しい授業もできなかったでしょう。私の下手な授業を受けた当時の生徒3人はその後、数学の教員になりました。指導技術や教育への思いは世代を超えて受け継がれていくのかなと思います。多くの先人の実践から学び、そして自らも工夫してよりよい授業をめざしていく。研修って本当に大切なんだと43年を振り返って思うこのごろです。